



⑦ 民族の選択

凍土への土砂注入

ああ、来るのが12年遅かった、と本気で後悔した。西寧から青蔵鉄道に乗り、ラサに向かう。青海湖のあたりまでは美しい高原が広がり、羊やヤクが草を食(は)む牧歌的な雰囲気だった。ところが、だんだん高度が上がって雪山が見えてくるころ、鉄道の沿線で大工事が始まった。デリケートな凍土の沼地に石や土が投入され、周辺が大規模に埋め立てられて、おそらく幅広の高速道路が作られている。ところどころの看板に、施工者の「中国交建」の文字が見える。『一带一路』の派手な建設プロジェクトを世界中で請け負う、あの会社だ。

青蔵鉄道沿いにはすでに1本、車の道が走っており、特に渋滞も生じていなかった。でも、中国政府の目指す大所高所、大局は、そんなレベルではない。経済の力で国家統合を進め、中国のどこであっても国民を画一的に管理する。南シナ海の埋め立てと同じような筋力を見せつけられて、ああ、来るのが遅すぎた、とため息が出た。

西部からの移民

チベットには1週間いたが、最初に抱いた印象は強まる一方だった。特に驚いたのが、移民の多さ。青蔵鉄道は途中、いくつかの駅で停まったが、荒野の真っ只中に何百人もの漢族が降りていった。標高3700mのラサも、高層ビルが立ち並ぶ

「普通話」の街に変わっていた。にぎやかな店の客引きは、方言からしてほぼ中国西部の人々で、尋ねるとだいたい甘肅省や四川省の出身だった。なんでわざわざ、こんなところに。

答えは簡単。チベットの建設プロジェクトに金がついているからだ。地元の人たちは、2007年の青蔵鉄道の開通で街が変わり始めた、という。翌年の北京オリンピック前にはチベット各地で暴動があり、中央政府は経済を発展させて少数民族を納得させるため大規模な投入を始めた。ただしこの段階では、かなりの金額が誰かのポケットに流れ込んでいた。

習近平氏が指導者になると、党内では厳しい監査が行われ、生活保護世帯には相談窓口の電話番号が配られた。不正は減り、補助金は末端まで届くようになり、チベット全域で道路や灌漑設備の建設が目に見えて進んだ。チベット族は、政府が進める各種プロジェクトに積極的に乗っかり、個人の利益を確保することを覚えた。

こうなると、チベット族は経済的な特権層で、それが得られないのが漢族移民だ。西部地域には他にも貧しい省がたくさんあるが、チベットのような優遇はないため、漢族たちはわざわざ

チベットの高地に出稼ぎにくる。漢族みたいに身を粉にして働けないよ、とチベット族は言う。

少数民族と現代化

実は私は2年ほど前に、チベット亡命政権があるインドのダラムサラに行ったことがある。そこでは多くの僧や尼僧が日々修行に励み、チベットの伝統的なアート作品の工房も置かれ、チベットの精神世界の保が図られていた。

私としては今回はその続きで、ある種の文化的リスクを持ってチベットを訪問したのだが、目にしたものが期待とあまりに違っていた。ただしそれは、漢族による少数民族の抑圧というステレオタイプな図式にも当てはまらない。道路沿いに溢れる政治スローガンからは、たしかに中国共産党による少数民族への圧力が感じ取れる。政府による宗教統制は陰に陽に存在する。

しかしチベット族の中では最近、子供に仏教どころかチベット語すら習わせない人が多いそうだ。中国という巨大な枠組みの中で生きていくことを覚悟するなら、彼らにとっては最初から漢語だけでやるのが効率がよい。そして、チベット族への優待策を活用し、子供をせいぜい有名な学校に入れ、公務員を目指させるのが一番おいしいという。これは中国共産党の押し付けではなく、その国内ルールにのっとって、チベット族たちが自分で選択した結果だ。

誰にだって豊かになる権利はある。だが、その過程で人間はいったいどれだけ失うのだろう。心のもやもやが晴れないまま、私を乗せた飛行機はラサの青空に向かって飛び立った。

(益尾知佐子・九州大学比較社会文化研究院准教授)

開発に呑まれるチベット